学界情報

12th European Conference on Power Electronics and Applications
September 2-5, 2007, Aalborg, Denmark

2007 年 9 月 2 日から 5 日までの 4 日間，EPE2007 がデンマーク王国オールボーにて開催された。オールボーはユトランド半島の北部に位置し，デンマークで 4 番目の人口を擁する都市である。中世からの建造物が現代の町並みに美しく調和しており，落ち着いた雰囲気だと感じた。

EPE は 1985 年以来，奇数年にヨーロッパ各都市で開催されてきた。今回の発表件数は約 600 件であり，アブストラクトの応募約 1000 件に対して採択率は約 60%である。その中で 160 件がレクチャーセッション，その他はダイアログ（ポスター）セッションでの発表となった。参加者は 900 人以上とアナウンスされた。

初日に 5 つのチュートリアルセッションが開催され，2 日目朝のオープニングセッション以降は，朝からの 3 時間がレクチャーセッション，午後の 2 時間がダイアログセッションというのが基本的なスケジュールであった。

オープニングセッションでは冒頭に Chairman であるオールボー大学の Frede Blaabjerg 教授から挨拶があった後に，今年の 2 月 9 日に EPE の初代 Chairman の Gaston Maggetto 教授が亡くなったことに対して黙祷が捧げられた。同セッションでは，デンマークの電力は 20%が風力発電でまかなわれていることが紹介されるなど，技術的な講演はすべて風力発電に関連するものであった。さらにその後のレクチャーセッションでは，風力発電関連のセッションが 3 つ連続して開催されるほど力点が置かれていた。

著者の印象に残ったのは風力発電の発電パワー変動を吸収する，空気圧縮によるエネルギー貯蔵システムである。エミッションフリーが売りであり，充電パワー60MW，放電パワー290MW，最大圧力約 70 気圧という構想である。

2 日目の夜にウェルカムレセプションが開催された。軽い食事とドリンクをいただきながら歓談に興じている最中に，日本人にとって印象的な一幕があった。今回の日本からの発表者は 95 人であり，参加者はさらに多かったと思われる。このことに地元の新聞記者が興味を持ったようで，日本人の集合写真を撮影しようということになった。東京工業大学の赤木泰文教授が音頭をとる格好で日本人がゾロゾロと移動し，現地記者による撮影が行われ，その直後に電気学会 D 部門の編修広報委員によって撮影されたのが下の写真である。地元新聞の記事は残念ながら入手できていないが，写真とともに記事に使用されていたという噂は耳にした。

3 日目の都市交通のセッションではキャパシタを搭載した路面電車の省エネ効果が発表された。発表後に聴衆十数人が講演者を取り囲んでディスカッションを始め，ランチタイムを 30 分近く削って盛り上がった。

3 日目の夜にはガライブニングが開催された。楽団の生演奏付で民族舞踊を鑑賞し，コース料理を頂戴した。メインディッシュのステーキは 2 枚目も運ばれてきて望外の喜びであった。授賞式等が開催された後，参加者は会場横の公園に移動して打ち上げ花火を眺めた。至近距離から打ち上げられたのでかなりの迫力であった。

ダイアログセッションは全発表件数の 3/4 近くを占め，かつ同時開催のセッションがほとんど組まれていないため，各日とも大盛況であった。早い時間は会場が混雑しており，遅い時間は相当数の発表者がいなくなるため，質問するのに苦労した。

4 日目の朝のクロージングセッションでは，次回 EPE2009 の開催地であるバルセロナ（スペイン），および EPE と交互に開催される EPE-PEMC2008 の開催地であるポズナン（ポーランド）が紹介された。次回の EPE2009 は 2009 年 9 月 8 日～10 日の開催である。

田口　義晃（鉄道総合技術研究所）

（平成 19 年 10 月 4 日受付）

日本人参加者の集合写真（中央は Frede Blaabjerg 教授）